



鏡野町長
山崎 親男

新年あけましておめでとうござい
ます。

皆様方には、希望に輝く新年をお
迎えることと心からお慶びを申し上
げます。

町民の皆様方には、平素から、町
政運営に対して多大のご理解とご協
力を賜り、心からお礼を申し上げます。

さて、本町は本年三月一日に旧四
町村が合併して十周年を迎えます。

この間、町では住民と行政の協働
によるまちづくりの推進と、地域の
課題を地域で解決していただくこと
により、地域の繋がりを強くする活
動を推進してまいりました。

昨年の議会十二月会議では、十周
年を契機に、一層、住民自治と互助
のまちづくりを推進するための理念
を定めた、「鏡野町輝くまちづくり基
本条例」のご議決をいただき、本年三
月一日施行することとしております。

さらには、平成二十七年年度から第
二期の「未来希望基金事業」に取り組
むこととしています。

また、本年十二月から津山圏域ク
リーンセンターが供用開始される予
定で工事が進んでおります。完成後

はごみの分別方法が新しくなる予定
です。新年度になりましたら説明会
を開催してまいります。ごみの減
量化と合わせ、皆様方のご理解とご
協力をお願いいたします。

年末の衆議院選挙では与党の圧勝
となり、安定した政権運営は可能と
なりましたが、社会経済情勢はさき
の见えない、予断を許さない状況が
続いている状況と考えます。

今後とも、将来の鏡野町を見据え
た町政運営を進め、町民の皆様が住
んでよかった、住み続けたいと感じ
られるまちづくりにまい進してまい
ります。

どうぞ、本年も引き続きご支援、
ご協力をいただきますようお願いい
たします。

本年が、皆様にとりまして幸多き
年となりますよう心からお祈り申し
上げ、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶



鏡野町議会議員
小椋 晶志

新年、明けましておめでとうござ
います。

平成27年の年頭にあたり議会を代
表いたしましたして、謹んで新春のご挨
拶を申し上げます。

町民の皆様には、希望に満ちた輝
かしい新春をお迎えることと心から
お慶び申し上げます。

さて、昨年は、多くの自然災害が
発生した年でありました。8月に
は、台風の影響による大雨により、
広島市北部で大規模な土砂災害が発
生し、また、9月には長野県の御嶽
山が噴火し、50人以上の方が亡くな
られたことは、記憶に新しいところ
であります。自然の猛威をまざまざ
と見せつけられた年でした。

国の政治経済に目を向けますと、
12月14日には衆議院選挙が行われ、
大義名分の無い選挙と言われながら
も、結果的には与党圧勝に終わった
ものの、投票率は戦後最低を記録し、
若者の投票離れが懸念されたところ
であります。また、選挙のきっかけ
ともなった消費税10%への引き上げ
は、本年10月から1年半延期され、
財政再建が先送りされた形となり、
12月10日には「特定秘密保護法」が

施行されるなど、政治・経済は依然、
混沌としており、先行き不透明な状
況にあります。

その様な状況の中で、12月には青
色発光ダイオードの開発とその量産
技術の開発と製品化が認められ、
ノーベル物理学賞を日本人3人が受
賞されたことは、喜ばしいことであ
り、改めて日本の高い技術力を世界
に示したと言えると思います。

いずれにしましても、これからの
日本が、未来に希望の持てる国に
なってほしいと思います。

鏡野町においても、多くの行政課
題が山積するなかで、歳出削減に懸
念の努力がなされ、行財政改革の効
果が表れてきたところです。

本年も限られた財源の中ではあり
ますが、町民の目線に立った、効率
的且つ効果的な事業推進が強く求め
られていると感じております。

議会といたしましても、昨年7月
に町内12地区で、2回目となる「町
民との意見交換会」を実施しました。
今後は、頂いた貴重なご意見を町政
に反映させ、活力ある町づくりに新
たな決意を持って取り組み、住民福
祉の向上に努力して参る所存であり
ます。

町民の皆様方のご理解とご協力を
御願い申し上げますと共に、本年も
皆様方のご健勝とご多幸を心からお
祈り申し上げます新年のご挨拶と
いたします。